

- (1)協会ニュース編集計画決定
- (2)協会ニュース執筆担当者決定

4. 「ホームページ」分科会 4回(継続)

平成14年4月22日～11月21日

- (1)ホームページ掲載内容審議

5. (社)日本建設機械化協会技術委員会参加 3回

平成14年4月16日～5月10日

- (1)平成14年度版大口徑岩盤削孔工法積算図書改訂編集の審議

成果品

- (1)平成13年4月から平成14年3月までの4工法施工実績表の発行

広報活動

- (1)広告 1回：新聞「日刊建設工業新聞」平成14年5月特集号(土質・地質の基礎)
- (2)協会ニュース 2回：第14号、第15号

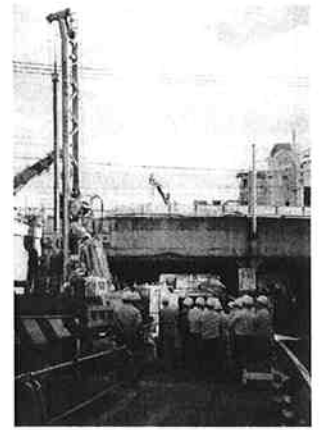
行事

- (1)見学会 1回
 - 平成14年10月10日 参加者：23名
 - 神戸線と新神戸トンネル有料道路(Ⅱ期)との立体交差工事に伴う土木関係工事(北行線)の見学

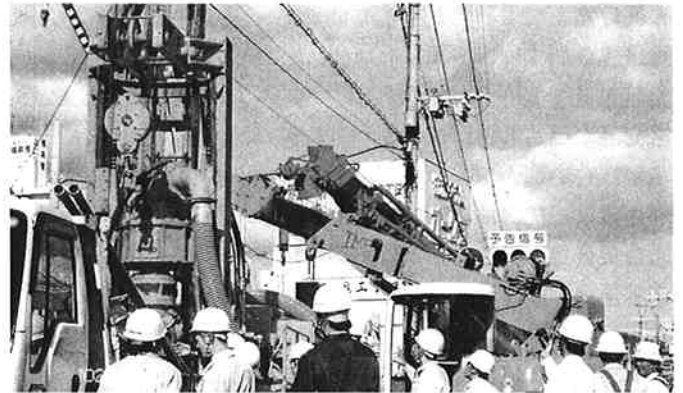
●新神戸、鉄道・道路立体交差工事現場見学会

10月10日、23名の会員が参加して、現場見学会が開催されました。この有益な場をご提供くださった、神戸市道路公社および佐藤工業・森組共同企業体の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

本工事は、神戸線と新神戸トンネル有料道路(Ⅱ期)との立体交差工事に伴う山留め杭工、柱列杭工事。BG工法(BG14機)およびMACH工法(MACH-80M機)による施工。掘削径750mm、掘削深さ21.8mの掘削状況と350H形鋼の建込状況を見学させていただきました。



BG14機施工風景



MACH-80M機施工風景

User Interview

(株)オーク 工事部長 久保田 晃生氏

今回は、ダウンザホールハンマを利用した新工法、新技術を開発中の株式会社オークの試験工事現場に伺い、久保田工事部長にインタビューしました。

記者：今、どのようなハンマの新工法、新技術を開発されているのですか。

久保田：現在、ダウンザホールハンマは広く一般建設工事に普及し、いかなる岩盤も容易に掘削できるようになりましたが、騒音の問題が未処理のままであり、当社としては、この問題を解決すべく、市街地でも利用できるハンマを研究・開発しています。

他にもハンマを利用した工法を同時に実証実験中ですが、今回は防音型ハンマについて簡単に説明します。従来型のハンマは、30m地点で約90dB以上の騒音が発生しています。過去、諸条件下において105～110dBという測定結果の記録もあり、激しい騒音で会話がまったくできない状況でした。

開発中の防音型ハンマでは、30m地点で68～83dBまで騒音を下げることができました。100m地点では、従来型のハンマ打撃音もかなり小さく(65～70dB)なりますが、逆に金属音が耳につき、かなり不快な思

いをします。防音型のハンマでは、56～60dBと低く、しかも金属音がなくなりました。とくに、夜間工事においてダウンザホールハンマを使うとき、1,500m以上離れていても金属音が響き渡り、安眠妨害等環境に影響をきたす場合もあり、この開発効果は大きいと考えています。



久保田 晃生氏

記者：かなり効果があるようですが、従来型に比べ掘削能力はどうですか。

久保田：従来型と掘削能力はまったく変わりません。

記者：防音型ハンマとは、どのような構造をしているのですか。

久保田：現在、特許出願中ですので詳しくは説明できませんが、ハンマケース、ロッドの構造が従来型と異なり、吸音効果のある構造となっています。

記者：防音型ハンマの稼働実績はありますか。

久保田：現在開発中ですので、実稼働としてはありませんが、各現場にて10カ所ほど実証試験を行いました。その結果を踏まえて、このたび市街地の中にある公立病院の増築工事で採用されました。

記者：今後の防音型ハンマの普及を願っています。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

(株)オーク 岩本 理